

東光高岳 デジタルトランスフォーメーション戦略 (TKTK-DX)



株式会社 東光高岳
TAKAOKA TOKO CO., LTD.

1. DXビジョン

- DXを推進する背景（東光高岳を取り巻く環境）
- DXの推進により目指す姿（DXビジョン）

2. DX戦略

- DXビジョンの実現に向けた基本戦略
- DX戦略の全体像
- ビジネスモデルの変革
- 新分野の開拓
- 生産性向上・業務効率化
- 組織
- 文化
- 人財
- 投資方針
- 管理
- DX推進体制

■ DXを推進する背景（東光高岳を取り巻く環境）

カーボンニュートラル

CO2削減、脱炭素社会の実現を目指して、再生可能エネルギーやEV等の導入が加速されている。それに伴い、電源の分散化（分散型エネルギー形態）も進展している。

レジリエンス

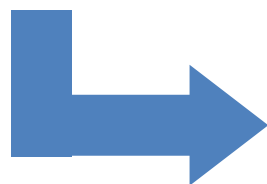
自然災害の激甚化・広域化に伴い、防災・電力レジリエンス強化が進められている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、新しい生活様式（ニューノーマル）への変化が起きている。

デジタル技術

デジタル技術の進化が、人々の生活や企業の競争環境に抜本的な変化をもたらしている。

規制の変化

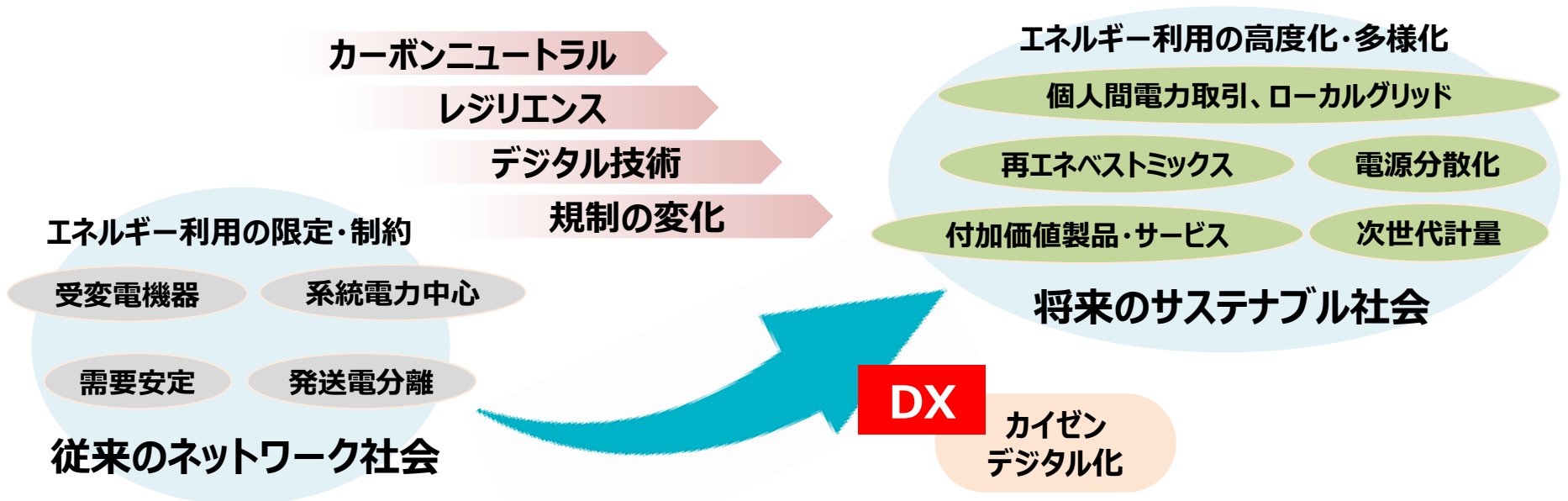
電力業界においては、省エネルギーの進展等に伴う国内エネルギー需要の減少傾向が続くなか、電力小売全面自由化により分野・地域を超えた競争がさらに激化しており、生産性向上と徹底的なコスト削減が進められている。



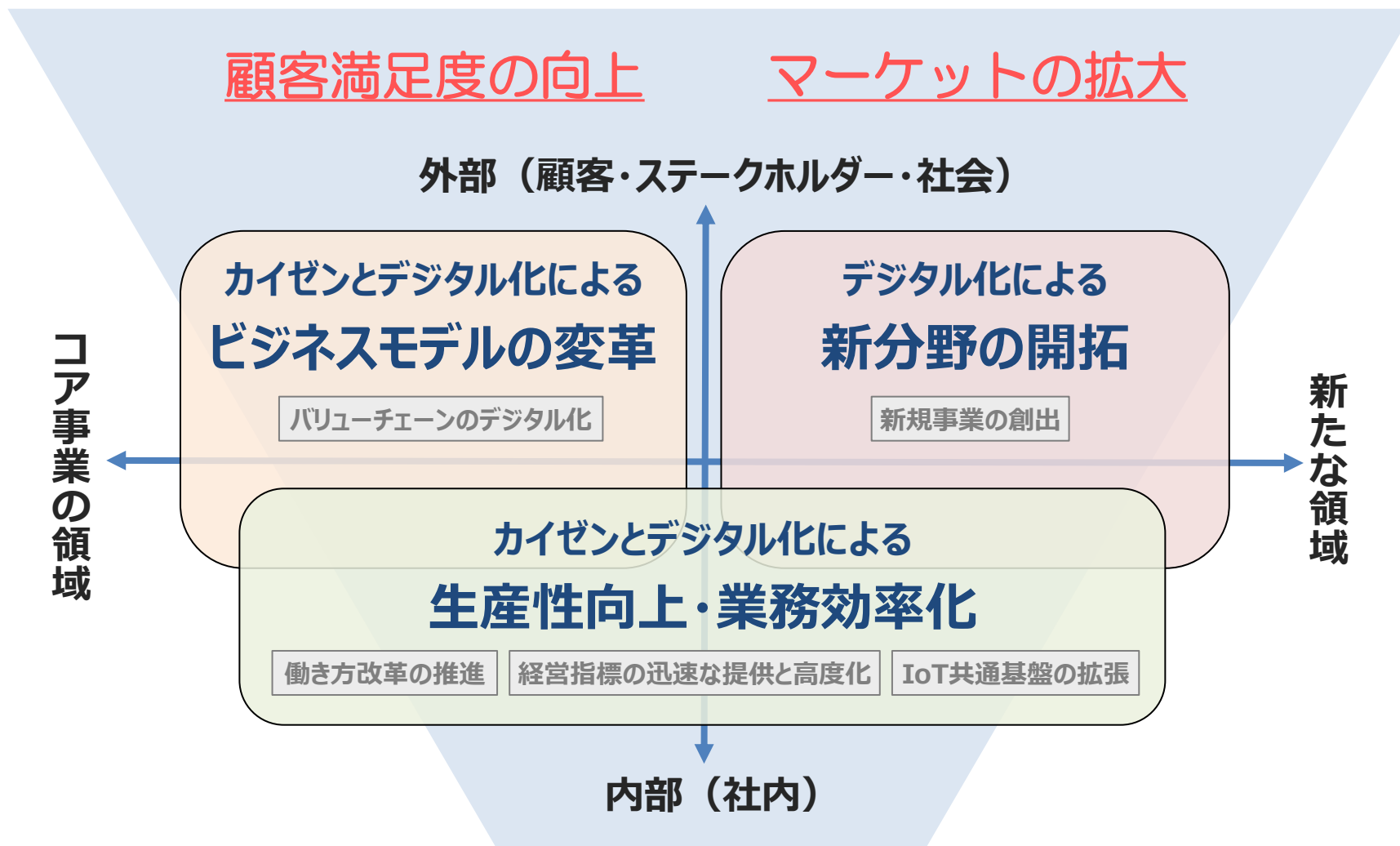
エネルギー利用におけるサステナブル社会の実現が重要となっている。

■ DXの推進により目指す姿（DXビジョン）

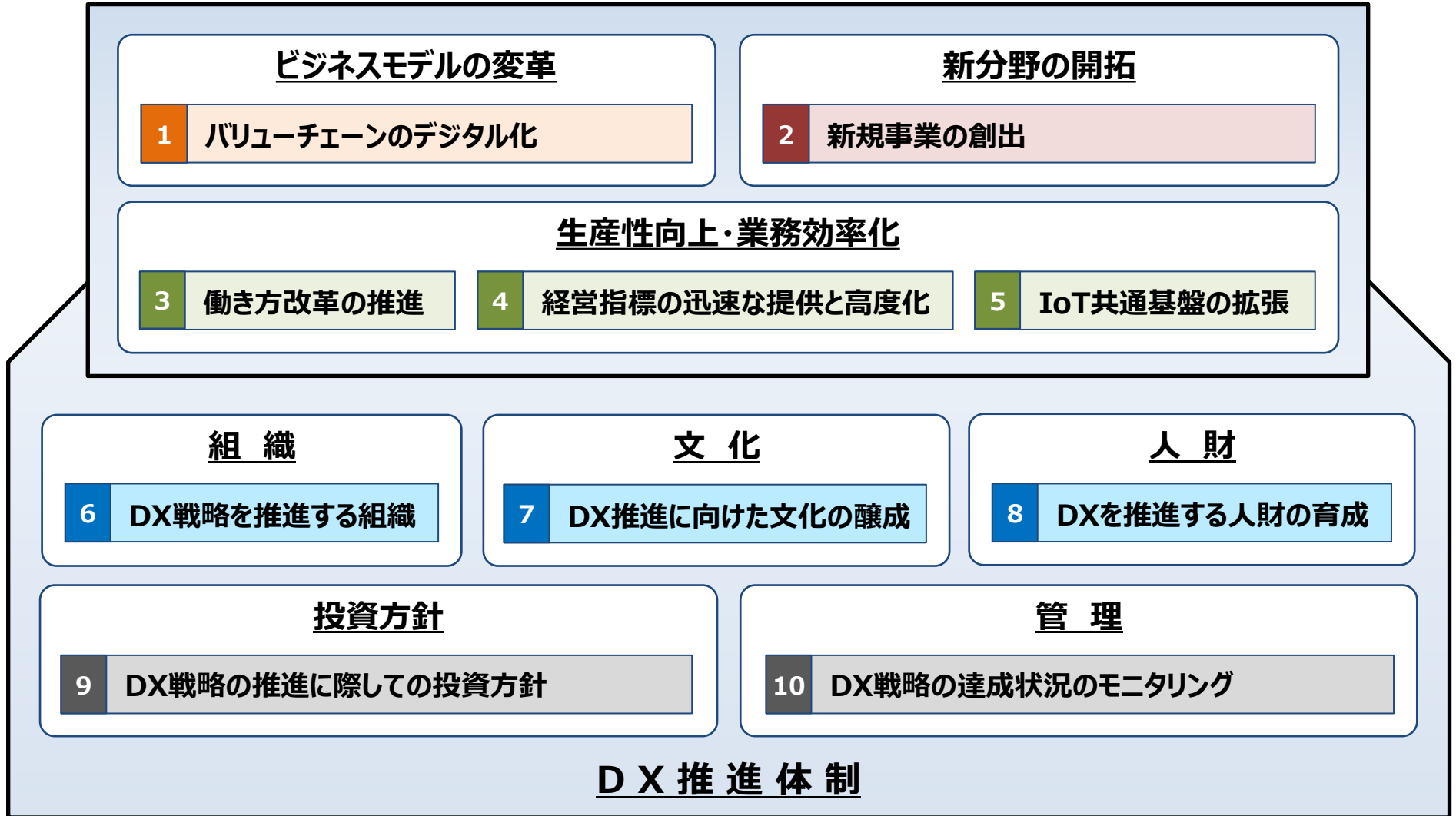
カイゼンとデジタル化により業務効率とスピードを飛躍的に向上させる。また、強みである電力技術、計測・伝送・制御技術と最新のデジタル技術を組み合わせたDXを推進することで、ビジネスモデルの変革と新たな価値創造に挑戦し、お客さまのエネルギー利用の高度化・多様化やサステナブル社会の実現をリードする。



■ DXビジョンの実現に向けた基本戦略



■ DX戦略の全体像



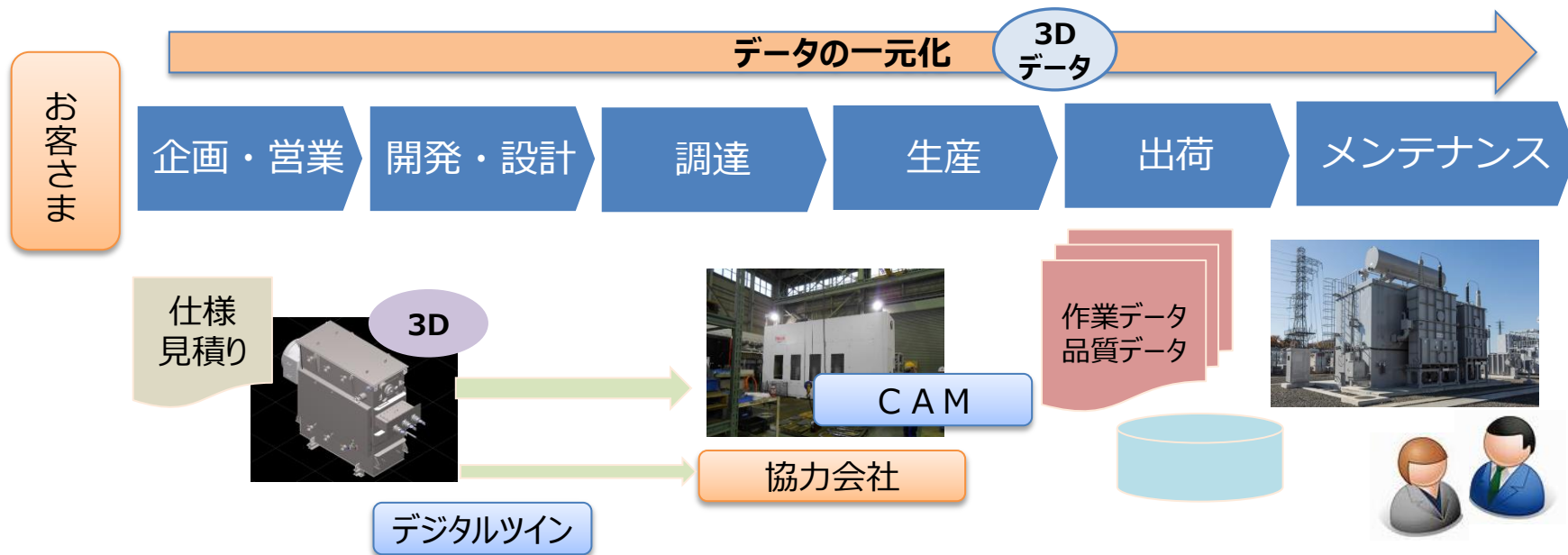
■ ビジネスモデルの変革

1 バリューチェーンのデジタル化

サプライチェーン全体でのデジタル化を行い、仕様検討から設計、生産、出荷、メンテナンスまでデータ連係を実現し、営業・設計・調達・生産・保守サービスシステムを変革します。

デジタル化によるバリューチェーンの刷新

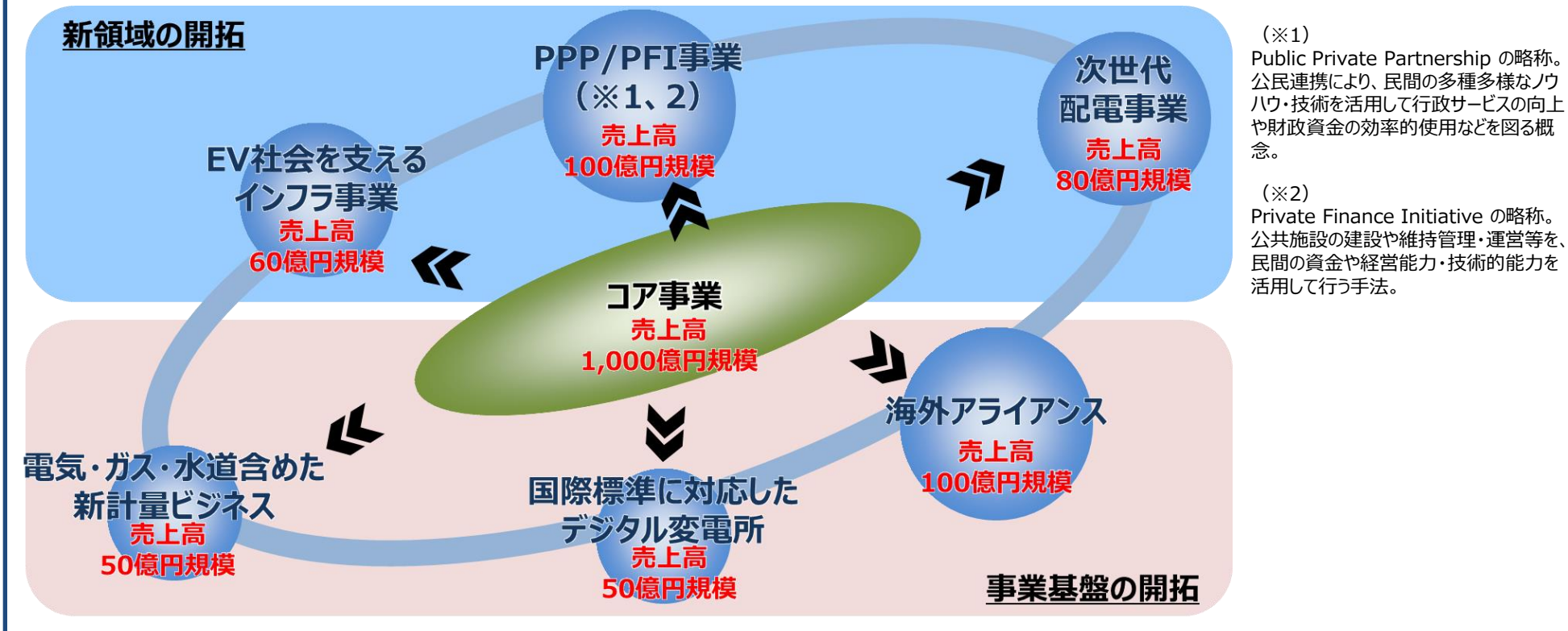
仕様検討から設計、生産、出荷、メンテナンスまでデータの一元化、データ連携を実現



■ 新分野の開拓

2 新規事業の創出

データとデジタル技術を活用してイノベーションを起こし、エネルギー利用の高度化・多様化に対応した新たな事業を創出します。



生産性向上・業務効率化

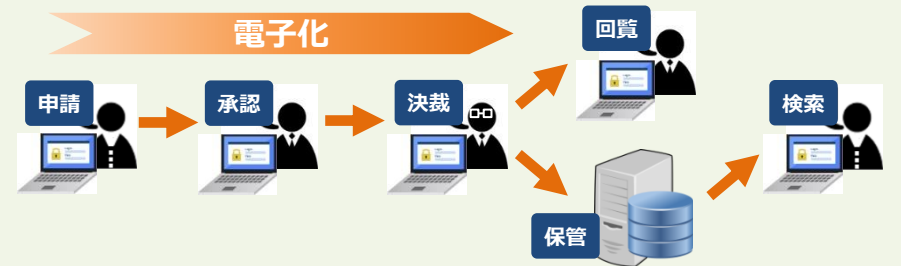
3 働き方改革の推進

場所、時間に縛られない多様な働き方を支え、業務の効率化と自動化を実現する環境を、クラウドやRPA等のデジタル技術を活用し整備します。

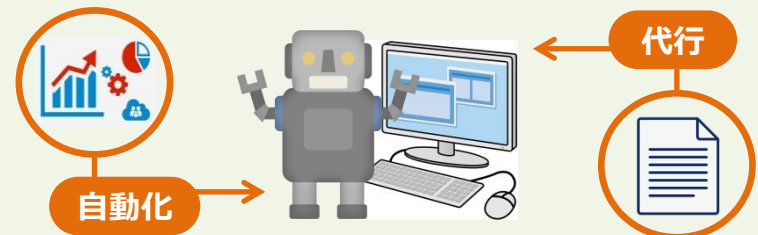
いつでもどこでも働ける環境をクラウドで実現



ワークフローで業務の効率化とペーパーレスを実現



RPAで業務の自動化を実現



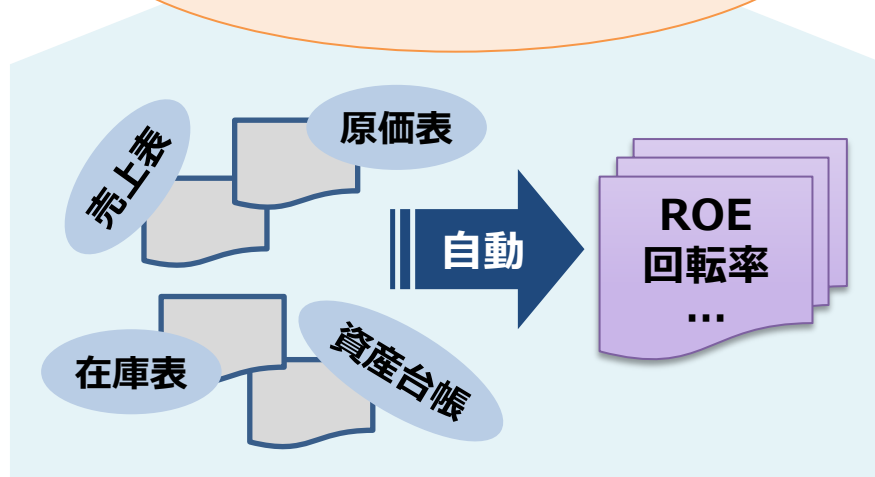
■ 生産性向上・業務効率化

4 経営指標の迅速な提供と高度化

経営判断に寄与する各種指標を迅速に提供すると共に、データ分析や予測により高度化を実現します。

経営指標の迅速な提供

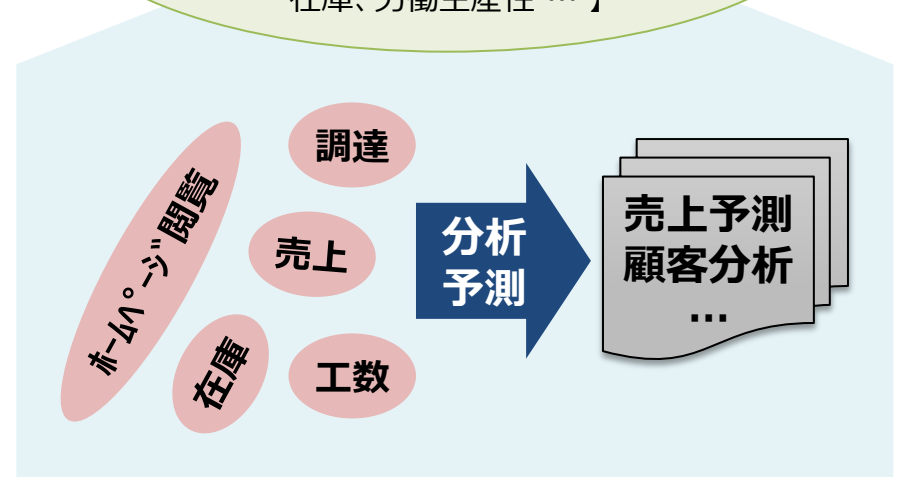
各所、様々な帳票類の自動整理と指標の自動作成



経営指標の高度化

各種データから分析・予測

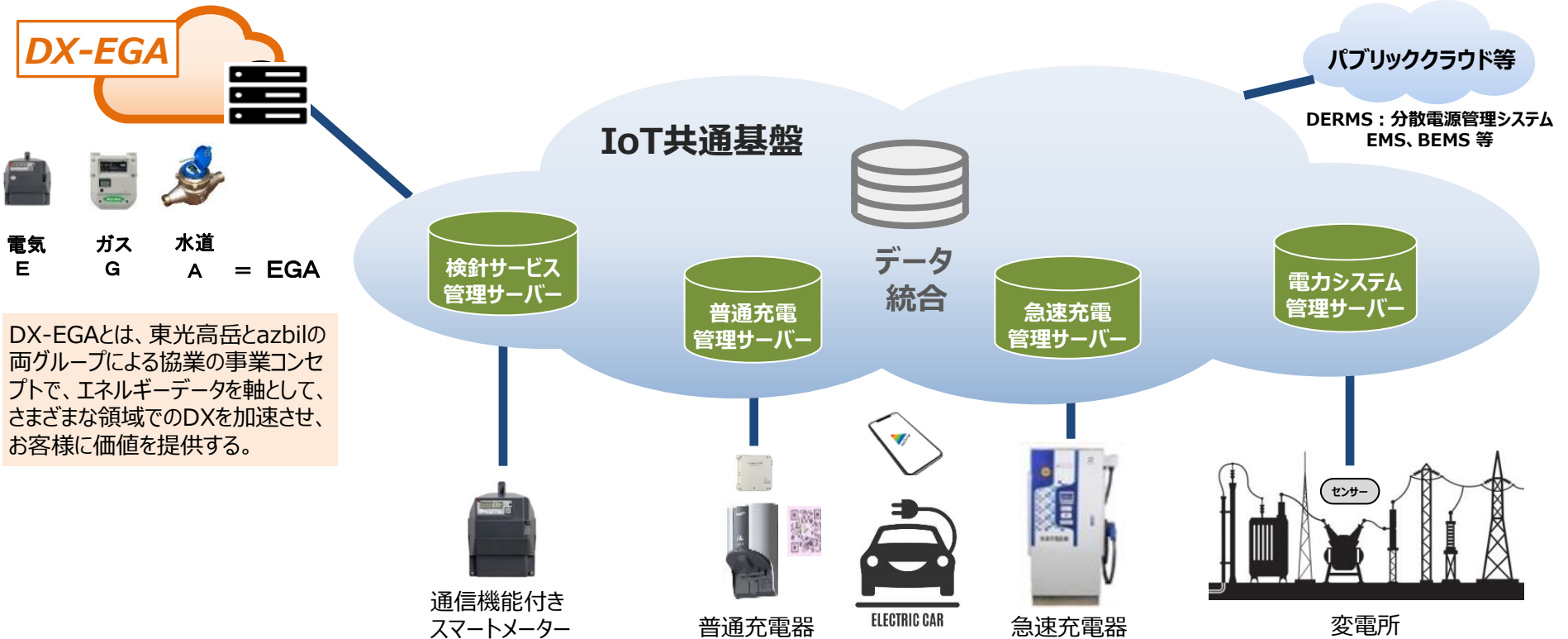
【製品顧客別受注・売上・利益、在庫、労働生産性…】



生産性向上・業務効率化

5 IoT共通基盤の拡張

電力管理システムはもとより、EV充電管理サービスや遠隔自動検針サービスなど、事業領域をサービス事業の方向へ拡大するため、IoT共通基盤（クラウド環境）の拡張ならびに整備を実施します。

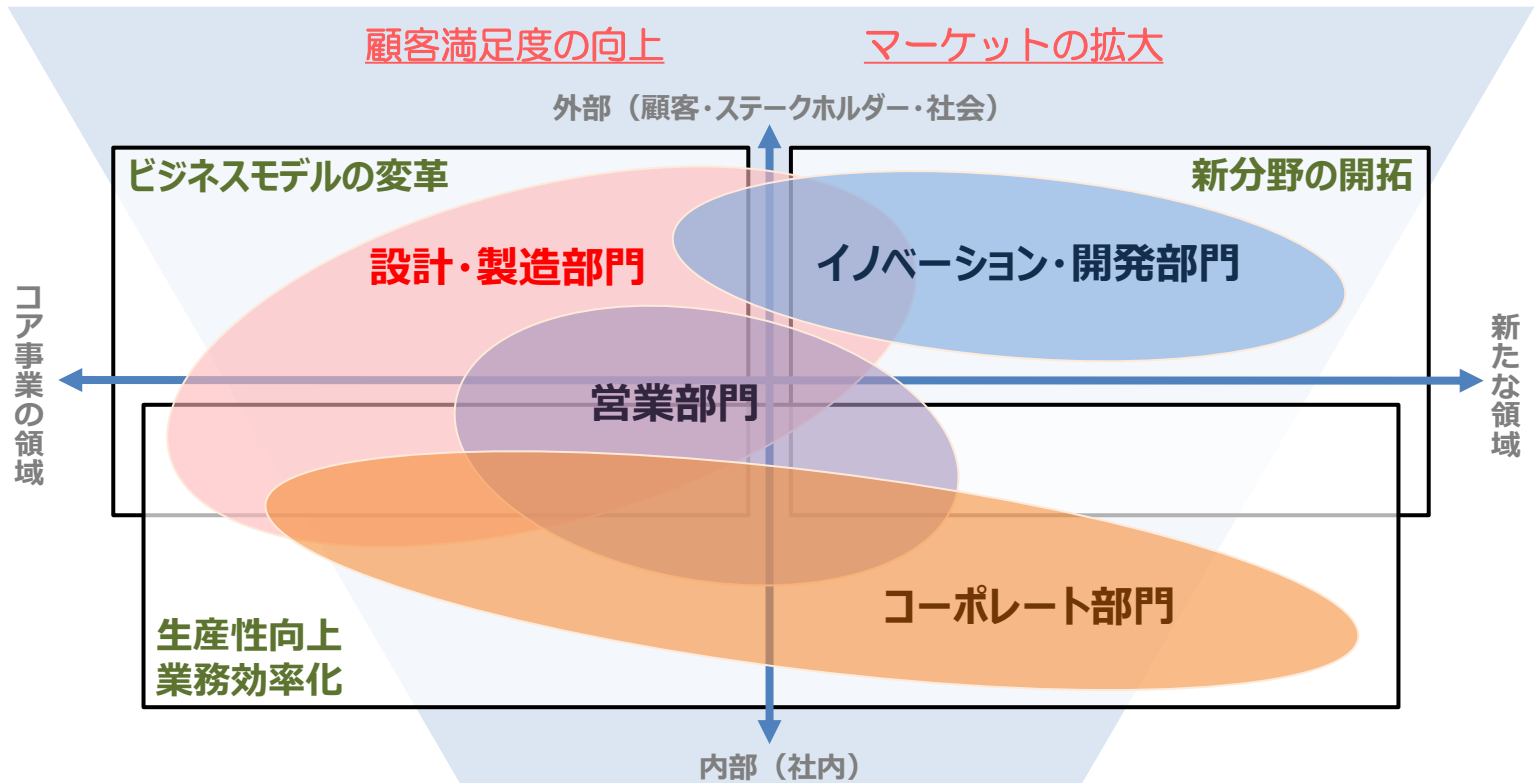


■ 組織

6 DX戦略を推進する組織

社長を最高カイゼン責任者（最高DX責任者に相当）とし、その直轄組織である「DXカイゼン推進本部」、新規事業分野は「イノベーション推進部」を中心に、DXを加速していく。

【部門の役割分担】



■ 文化

7 DX推進に向けた文化の醸成

DX推進に向けた意識改革と行動変容に合致した「東光高岳クレド」を実践していく。

DX推進に求められる マインド

巻き込み

相手の意見を聞き、周囲を巻き込む。

課題発見

解決すべき課題を洗い出し、仮説を立て、デジタル技術で解決する。

挑戦

「現状を変えたい欲求」を持つ。

圧倒的当事者意識

私たち全員が1つのチームです。
どんなことでも自分ゴトとして当事者意識を強く持つ。
枠にとらわれず自主的・積極的に行動すれば、大きな力を生み出せます。

本質を突き詰める

原理・原則・根拠まで常に突き詰めて理解し、事実・データで語ろう。
成功を偶然ではなく必然にするにはどうするか？何に基づいて行っているのか？
ものごとの本質を追い求め、突き詰めることでホンモノになり、稼ぐ力につながります。

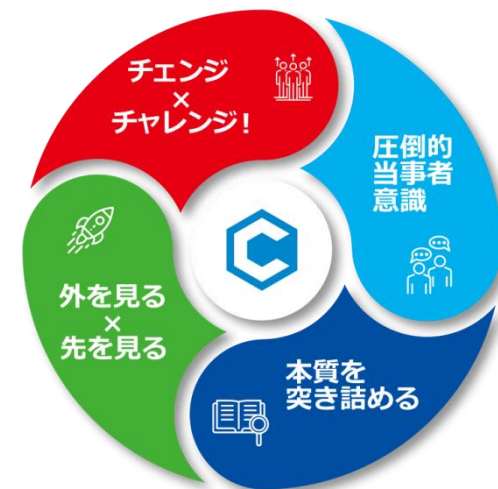
外を見る×先を見る

お客さま・社会・世界に目を拓き、ニーズ・情報・先端技術を追い求めよう。
そして、今だけでなく10年先を見据えて行動しよう。
見るべきモノをしっかり捉え、今何をすべきか考え、スピーディーに行動することが明日の東光高岳をつくれます。

チェンジ×チャレンジ！

失敗を恐れずに勇気をもってチャレンジしよう！
現状を維持するのではなく、今を変えていく意志と行動力を持つ。
絶対に諦めないという強い思いと情熱をもって、前へ前へ前へと踏み出せば、
難しいことも乗り越え、夢や志を実現できます。

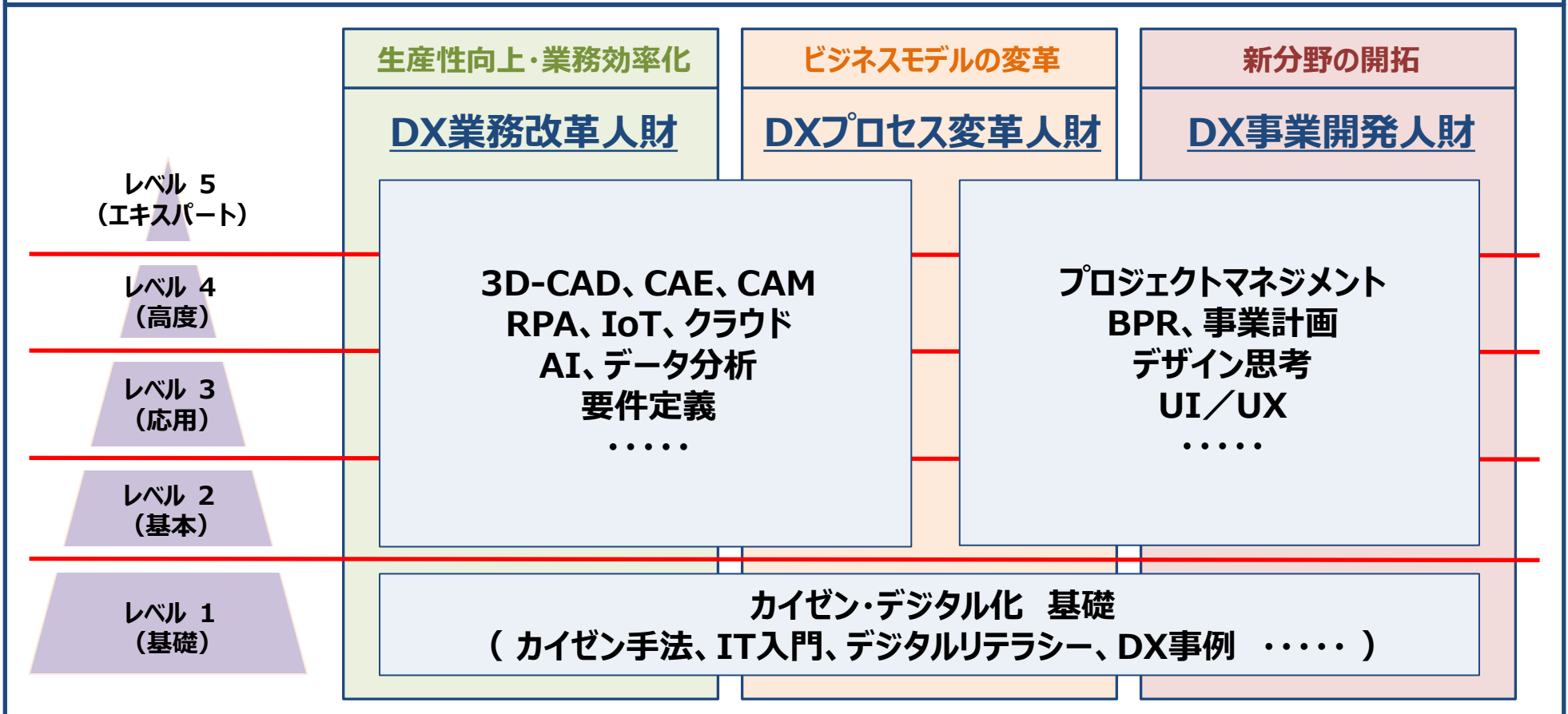
「東光高岳クレド」は、企業理念のもとビジョンを実現するために、従業員・経営者を含め全社共通の信条・価値観として、考え行動する際の拠り所を明瞭で実践的に表したものだ。



■ 人財

8 DXを推進する人財の育成

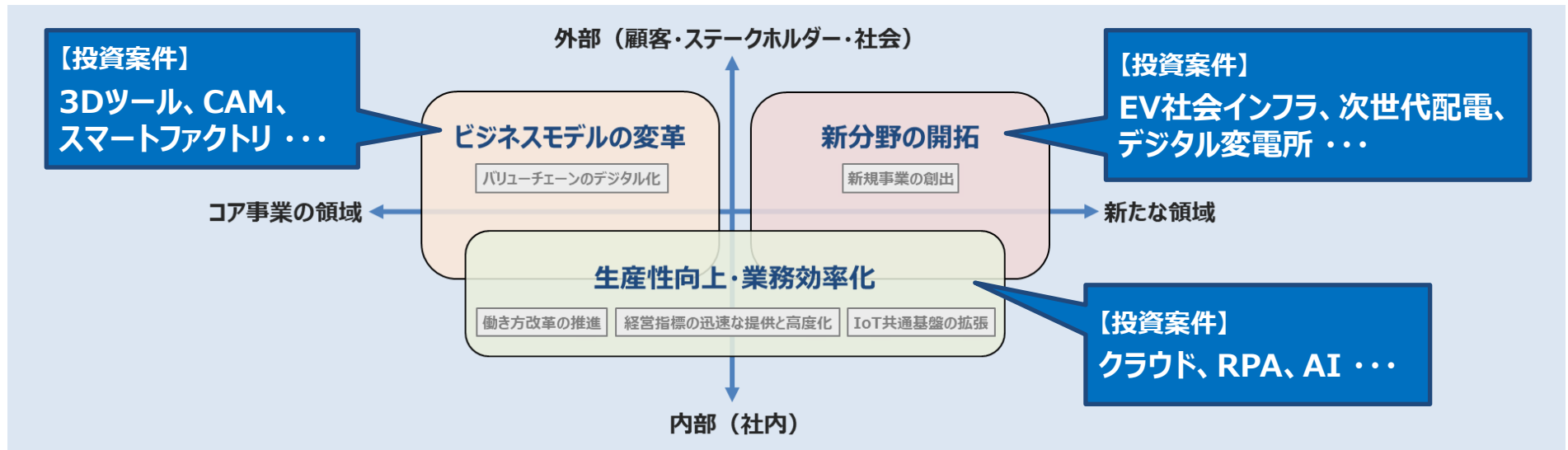
DX人財育成体系を整備し、デジタルリテラシーの向上やデジタルスキルの修得を推進する。



■ 投資方針

9 DX戦略の推進に際しての投資方針

- DX戦略に関わる投資は、予算策定や期中の予算見直しにおいて、投資効果【計画】に基づき必要な配分を適切に行うとともに、投資効果【実績】の評価を強化していく。
- 設備投資においては現状維持から成長領域へのシフトを行い、「デジタル化」を中心としたものへの比率を高めていく。
- 研究投資においては抜本的な投資配分の見直しを行い、DX戦略の「新分野の開拓」に関わるものに重点投入していく。



■ 管理

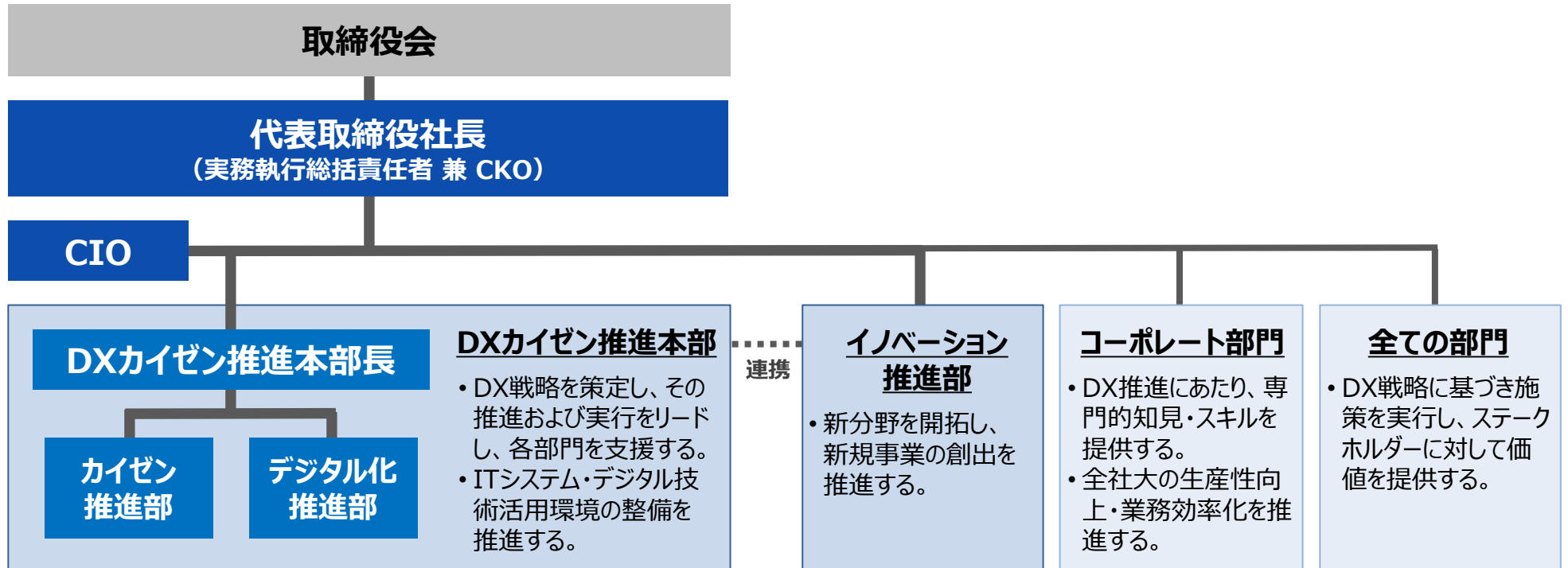
10 DX戦略の達成状況のモニタリング

DX戦略の達成状況は、企業価値創造の結果である「2030VISION & 2023中期経営計画」の指標を評価すると共に、「ビジネスモデルの変革」「新分野の開拓」「生産性向上・業務効率化」における指標をモニタリングしていく。

	指 標
ビジネスモデルの変革	自動見積りの活用（自動見積り適用製品数）
	個別設計の自動化（自動設計適用製品数）
	3Dを活用したライン設計（3D活用ライン数）
	標準モジュール組合せ品の自動手配
	保守サービスへ設備DB・デジタルツイン・IoT活用
新分野の開拓	新規事業の売上高
生産性向上・業務効率化	ペーパーレスの実現（オフィスワークのペーパーレス化率）
	標準業務の自動化（オフィスワーク標準業務の自動化率）
	データ分析から予測データ・付加価値データの作成

■ DX推進体制

代表取締役社長を実務執行総括責任者^{※1} 兼 CKO^{※2}として配置し、CIO^{※3}の下でDXカイゼン推進本部長がDX推進および実行をリードし、イノベーション推進部とも連携する体制を構築している。



※1 「情報処理の促進に関する法律施行規則及び中小企業信用保険法施行規則の一部を改正する省令」(経済産業省令第四十八号)において定める、戦略の推進等の実務の執行を統括する責任者を指す。

※2 Chief Kaizen Officerの略で、最高カイゼン責任者を指す。当社においては、CDXO(Chief Digital Transformation Officer: 最高デジタル・トランスフォーメーション責任者)に相当する。

※3 Chief Information Officerの略で、最高情報責任者を指す。

将来予想に関する注意事項

本資料の将来計画の数値につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる可能性があります。



株式会社 東光高岳
TAKAOKA TOKO CO., LTD.